

佳作

夜回り先生に出会って

静岡県 静岡女子高等学校一年 紅林 亜也奈

「おれ、窃盗やってた。わたし、援助交際やってた。おれ、イジメやってた。わたし、シンナーやってた。おれ、暴走族やってた。わたし、リストカットやってた……」

いいんだよ。昨日までのことはみんな。

「おれ死にたい。わたし死にたい。」

でも、それだけはダメだよ。まずは今日から、水谷と一緒に考えよう。

わたしは、夜回り先生の本を開きこの文を見て、本当にびっくりしました。又、すごくシヨ

ックでした。それでも水谷先生は、非行に走ってしまった彼等の存在を認め、一緒に一からやり直そうと、彼等と共に社会に立ち向かっていました。

水谷先生は、十二年前に夜間高校の教員になりました。それと同時に、わたしたちが住む太陽の日の明るい昼の世界とは違つ、夜の世界闇の世界の住人になったのです。授業するのは夕方五時から九時までで、週のうち何日はその後、「夜の街」へと出かけています。

私は、渋谷や横浜などの夜の街はにぎやかですごく楽しいんだろうなあ。と少しあこがれていました。

しかし、夜の街は心ときめく彩りがあってもそれは偽りの彩りで、薄汚れている。というところに、この本を読んで気付かされました。

夜の街は、シンナーや薬物の密売が多く行われており、その誘惑で何人もの若い命が亡くなつてしまつたり、今現在も薬物依存で悩まされている人が多くいることを知つたからです。

水谷先生が夜回りを始めて十三年。約五千人以上の子供と関わってきました。その一つ一つの出会いに喜びと哀しみがありました。先生と出会つたことがきっかけで、人生を一からやり

直してくれた人、逆に夜の世界へより一層沈み込んでしまった人も少なくないそうです。

私は、その中で、愛さんというシンナーを乱用していた女の子の話が一番心に残っています。

愛さんが、シンナーに手を出してしまったのは中学一年生の頃でした。愛さんは大会社の社長の娘で、生活には何一つ苦労していませんけど、家庭環境は決して恵まれていませんでした。小学六年生から父親に性的虐待を受けていて、その心をいやす為にシンナーを使って非行をくり返していたのです。

しかし、水谷先生と出会つてからは、彼女も未来への希望を持ち始め、人生を一からやり直

す為に精神病院で一生涯命頑張っていました。
そんな彼女がある日、虐待を受けていた昔の
ことがフラッシュバックで思い出されてしま
い、
「もう人を愛せない」
という言葉を残し、病院のベッドで首つり自殺
をしてしまいました。

私は、この話を読んで大人の都合で悩まされ、
彼女の明るい未来を閉ざしてしまった親がす
ごく憎いです。そして今の時代、非行に走って
しまった子供をどうしようもない子だと見捨
ててしまう大人が多いと思います。強がってい
る彼等も、心はすごくさびしくて親や大人から
の助けを求めていると思います。なので、水谷
だと、理解することができました。

私は、中学一年の頃イジメにあったことがあ
りました。苦しくてつらかった時、自分がいな
くなればいい。と軽い気持ちで思ったことがあ
ります。でも、この本を読んで励まされ、友と
ぶつかり合いながらも逃げずに頑張りました。
私も生きているから今がある。楽しい高校生
活があるんだと、生きている喜びを感じました。
そして、本の中に書かれてあった、シンナー
や薬物などによって衰しいことがなくなる世
の中にしていかなければならない。と痛感しま
した。

先生のような大人がもっと必要だと思います。
水谷先生のすごい所は、「日本で最も死に近
い教師」と言われる程、何があっても子供から
逃げずに立ち向かっていく熱い思いです。その
熱意があったから、先生と出会った何人もの人
が救われたと思います。

夜回り先生の本の最後に水谷先生は、
「私にとって子供たちの過去なんてどうでも
いい。今もどうでもいい。大事なのは自分
身の意思と力で幸せな未来をつくっていく
こと。そのために生きてさえすればそれでい
い。」

と語っています。私は、本の始めに言っていた
「いいんだよ」は今を生きていてくれてありが

